

アフリカに届いた防具

佐賀県からは遠い、遠い、アフリカのタンザニアで、2018年、タンザニアで初の剣道クラブが発足しました。クラブといっても、当時部員はたった2名。指導者は当時 JICA タンザニア事務所に勤務されていた矢追秀樹さんでした。2人は、JICA タンザニアオフィスの屋上で、普段着のまま素振りや、すり足の練習から始めました。なぜなら、練習する場所も、必要な防具もなかったからです。

その後、練習場を探す中で、空手を教えている道場を土曜日のみ借りる事ができ、空手を習っていた生徒さんたちが剣道にも関心を抱き、少しずつ部員が増えていきました。

▼届いた防具を付けてポーズ！



▼タンザニア剣士の眼差し



しかしながら、環境が整っているという訳ではありませんでした。現地の建物は板張りではなくコンクリートの為、裸足で競技を行う剣道は足を痛めてしまう可能性もあります。また、胴着も防具も無いため、実践的な練習でなく、前述したような基礎練習しか行えないままでした。

そんな折、様々なご縁が繋がり、佐賀県立三養基高校から防具の支援が行われました。全員が防具を付けての練習とまではいっていませんが、寄付を頂いた事により、練習で出来ることの範囲が広がり、より一層練習に励むことの出来る環境が整いました。その後、タンザニア剣士から、支援して頂いた方々への手紙も届けられました。

そののち時は流れ、2020年現在。3か所の道場で約50名のタンザニア剣士が稽古に励んでいます。今後も、タンザニアでの剣道の輪が広がっていくことに、多くの期待が寄せられています。



▲現地からの手紙



現地で鐙を作っている様子



多くの才能溢れるタンザニアの人々が剣道を学びたいと思っています。



2019年、タンザニア日本人会夏祭りで基本剣道形を披露しました。



彼らはタンザニア、さらに東アフリカ地域の剣道を発展させたいと考えています。